



転んでも 立ち上がって 歩み続ける子に

校長 浮ヶ谷 優美

先日の運動会では、大きな温かな拍手をいただきありがとうございました。晴れ晴れとした表情で演技し力いっぱい競技に臨むお子さんの姿を通して、春の運動会のねらいの一つである「まとまりのある学年・学級づくり」の成果を感じていただけたことと思います。

さて、年度初めの学校経営方針「大切にしていきたいこと」で十分に説明できなかった「Helpを出す」「70点でいい」について紙面でお伝えします。

【Helpを出す・Helpに気付く】ある日突然、子どもが学校に行きたがらなくなったら困惑してしまいますね。「おなかが痛い、気持ちが悪い」という不定愁訴を頻繁に訴える子もいるかもしれません。こうしたことは、子どもが日々の生活で感じるうまくいかなさや困り感の現れであることがあります。子どもが発するつらさを受け止め寄り添うためには、その背景を理解するために気持ちの言語化が欠かせません。しかしながら、自分の気持ちに向き合い心の言葉を言語化することは、子どもに限らず大人でも難しいことです。「つらい、できない…」など、弱音を吐くことをためらいがちですが、よりよい解決策を見つけ、つらさを軽減するためには、援助要請が欠かせません。Helpを出せば、周りの人は手を差し伸べてくれます。周囲の支えに励まされた経験のある人は、次は困っている他者に温かく手を差し伸べることができるはずで、周囲に支え励ましてもらいながら困難を乗り越える経験を積み重ねていくことが、たくましさにつながっていくものと思います。

【70点でいい】「レジリエンス（折れずに立ち直る力）」という言葉が注目されたことがありました。誰でも失敗したり落ち込んだりすることがあります。山あり谷ありの人生を歩き続けていくための処世術として、「自らを追い込まない」考え方を身に付けてもらいたいと思っています。できないことに注目する（減点法）のではなく、70点でOK「できた！」というプラス思考で自己肯定感を高めていくことも大切です。時には「まっいいか」と口にすることで自分を許したり、諦めたりすることがあってもいいと思います。頑張り屋さんにありがちな「自らを追い込んで自分をさらに苦しめてしまう」ことを回避したいです。

育てたい児童像「自らの力で道を切り拓くことができる力強さと優しさをもった子」には、猪突猛進、様々なことにエネルギーに挑戦してほしいという願いを含んでいます。一方、そうした生き方に失敗はつきものです。失敗してもへこたれず、十分落ち込んでから再び立ち上がる経験の積み重ねを通して、人とかわりながらしなやかに力強く（したたかに）人生を歩んでいける人に育ててほしいと願っています。

6月13日（土）学校公開日2校時には、体育館で学校経営説明会を行います。年度初めの保護者会でお話できなかった教育活動についての紹介や質問コーナー、保護者同士の交流懇談も予定しています。学校の取組についての理解、保護者相互の交流を深める機会として活用いただきたくご参加をお待ちしております。

令和8年度学校運営協議会組織について ～地域と共にある学校づくり～

- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 【会長】鈴木 友美 様（本校 14 代校長） | 【委員】福元 結希 様（平成 20 年度本校卒業生） |
| 【委員】福田 欣也 様（同窓会会長）     | 関 文夫 様（日本大学理工学部教授）         |
| 飯塚 景子 様（学校支援本部本部長）     | 西嶋 春美 様（下井草青少年育成委員）        |
| 久保田信幸 様（保護者・おやじの会）     | 林 優子 様（保護者・PTA 共同代表）       |